

製品名: Glut4 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab11504**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:100-1:300,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	56kDa

抗原情報

遺伝子名	SLC2A4
別名	SLC2A4; GLUT4; Solute carrier family 2, facilitated glucose transporter member 4; Glucose transporter type 4, insulin-responsive; GLUT-4
遺伝子 ID	6517.0
SwissProt ID	P14672
免疫原	抗血清はヒト SLC2A4 の N 末端領域由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 21-70

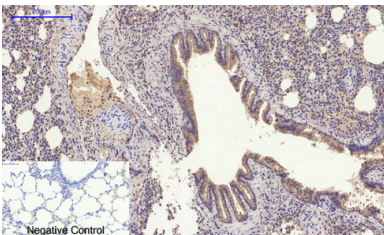
背景

この遺伝子は溶質輸送体ファミリー2 (促進性グルコーストランスポーター) に属し、インスリン調節性促進性グルコーストランスポーターとして機能するタンパク質をコードしています。インスリンが存在しない状態では、この膜貫通タンパク質は筋肉および脂肪組織の細胞内に隔離されています。インスリン刺激から数分以内に、このタンパク質は細胞表面に移動し、細胞膜を越えてグルコースを輸送し始めます。この遺伝子の変異は、インスリン非依存型糖尿病 (NIDDM) と関連付けられています。[RefSeq 提供、2008年7月]、疾患: SLC2A4 の欠陥は、インスリン非依存型糖尿病 (NIDDM) の原因となる可能性があります [MIM:125853]。SLC2A4 の欠陥は、NIDDM における特定の受容体後欠陥の原因となる可能性があります。Ile-383 の位置の変異体は、少数の NIDDM 患者に見られますが、非糖尿病患者には見られないようです。機能:インスリン調節性促進性グルコーストランスポーター。、その他:TBC1D4 のインスリン刺激によるリン酸化は、GLUT4 の転座に必要です。、オンライン情報:GLUT4 エントリ、PTM:SUMO 化されています。、類似性:主要促進因子スーパーファミリーに属します。糖トランスポーター (TC 2.A.1.1) ファミリー。グルコーストランスポーターサブファミリー。、細胞内局在:主に核周縁領域に局在し、継続的に細胞膜にリサイクルされ、そこで急速に再インターナライズされます。ジロイシンのインターナライゼーションモチーフは、細胞内隔離に重要です。、サブユニット:DAXX に結合します。N 末端を介して SRFBP1 と相互作用します。、組織特異性:骨格筋および心筋;褐色脂肪と白色脂肪。

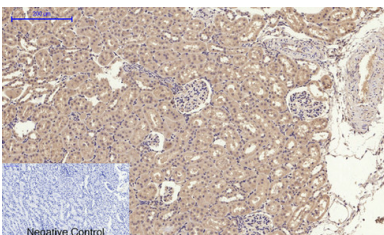
研究分野

インスリン受容体;アディポサイトカイン;2型糖尿病;

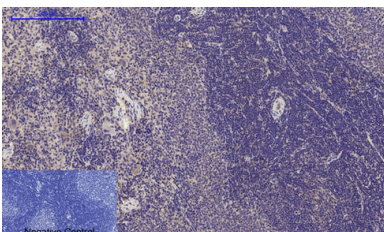
画像データ



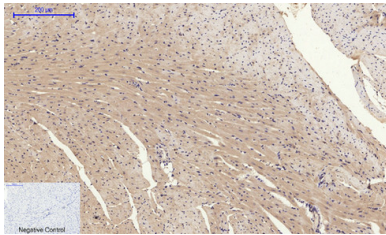
パラフィン包埋ラット肺組織の免疫組織化学染色。1. Glut4 ポリクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。



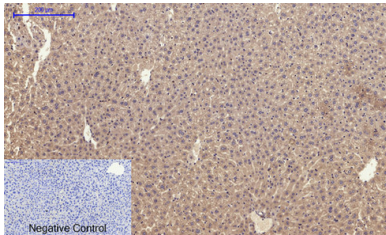
パラフィン包埋ラット腎臓組織の免疫組織化学染色。1. Glut4 ポリクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。



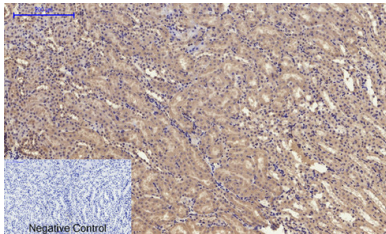
パラフィン包埋ラット脾臓組織の免疫組織化学染色。1. Glut4 ポリクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。



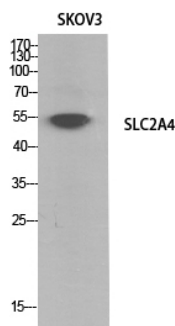
パラフィン包埋マウス心臓組織の免疫組織化学染色。1. Glut4 ポリクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。



パラフィン包埋マウス肝臓組織の免疫組織化学染色。1. Glut4 ポリクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。



パラフィン包埋マウス腎臓組織の免疫組織化学染色。1. Glut4 ポリクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。



Glut4 ポリクローナル抗体を用いた SKOV3 細胞のウェスタンブロット分析。二次抗体は 1:20000 に希釈された。